

ユースケースを通じた共通基盤の議論について 1 / 2

1. 経緯

- 異なるシステム間における連携課題、共通基盤に必要な機能を抽出するためにはユースケースを設定し個別具体的な議論をすることが重要
- 本検討会構成員や各戦略協議会等の有識者から幅広くユースケースを募集
- 集められたユースケースより実現可能性の高い（ビジネスモデルが成立しそうな）提案を深堀の対象として選定
- 選定したユースケースの連携課題、共通基盤に必要な機能、推進体制を深堀

2. 全体スケジュール

1/31 第二回検討会 ユースケース案募集

2/12 第三回検討会 ユースケース案について議論



ユースケースの選定、深堀

3/2 第四回検討会

- ・ユースケースをまたぐ共通的な事項の抽出
- ・プラットフォーム構築に必要な技術的な課題や社会実装に向けた課題と留意事項の導出

3/25 第五回検討会

総合戦略 2016 に向けたとりまとめ

ご議論いただきたい事項

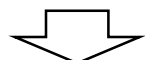
- ・誰がどのように運営していくべきか？
- ・基盤の抽出は十分か、他に基盤となり得る項目はないか？
- ・具体的な技術課題や検討課題は何か？
- ・社会実装の時期はいつごろか？
- ・社会実装後の評価方法は？

ユースケースを通じた共通基盤の議論について 2 / 2

3. 検討項目

ユースケース選定のための検討項目 (付加価値生産性視点)

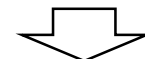
- 1 創出される価値、顧客、顧客との関係
- 2 チャンネル（価値を顧客に届ける手段）
- 3 収益の流れ
- 4 主要活動（価値を作り、提供するための活動）
- 5 パートナー（単独か、誰かと組むのか）
- 6 リソース（ビジネスモデルを実現するために必要な資源）
- 7 コスト構造（何にどれくらいのコストがかかるのか）



ユースケースごとに精査
(ご確認ください)

ユースケース深掘のための検討項目 (共通基盤抽出視点)

- 1 コアシステム間でやり取りされる情報、共有するデータ、また、そのデータの共有及び交換方法
- 2 国際競争力向上のための標準化すべき協調領域
- 3 求められるセキュリティのレベルとその対応
- 4 当該環境を整備していく体制
- 5 社会実装までに整備すべき制度
- 6 その他社会実装までに取り組むべき課題



集計結果まとめ
(ご議論ください)

選定、深掘したユースケース 5 例（対象システムと価値）

・おもてなしシステム × 高度道路交通システム
による利用者の安心・安全

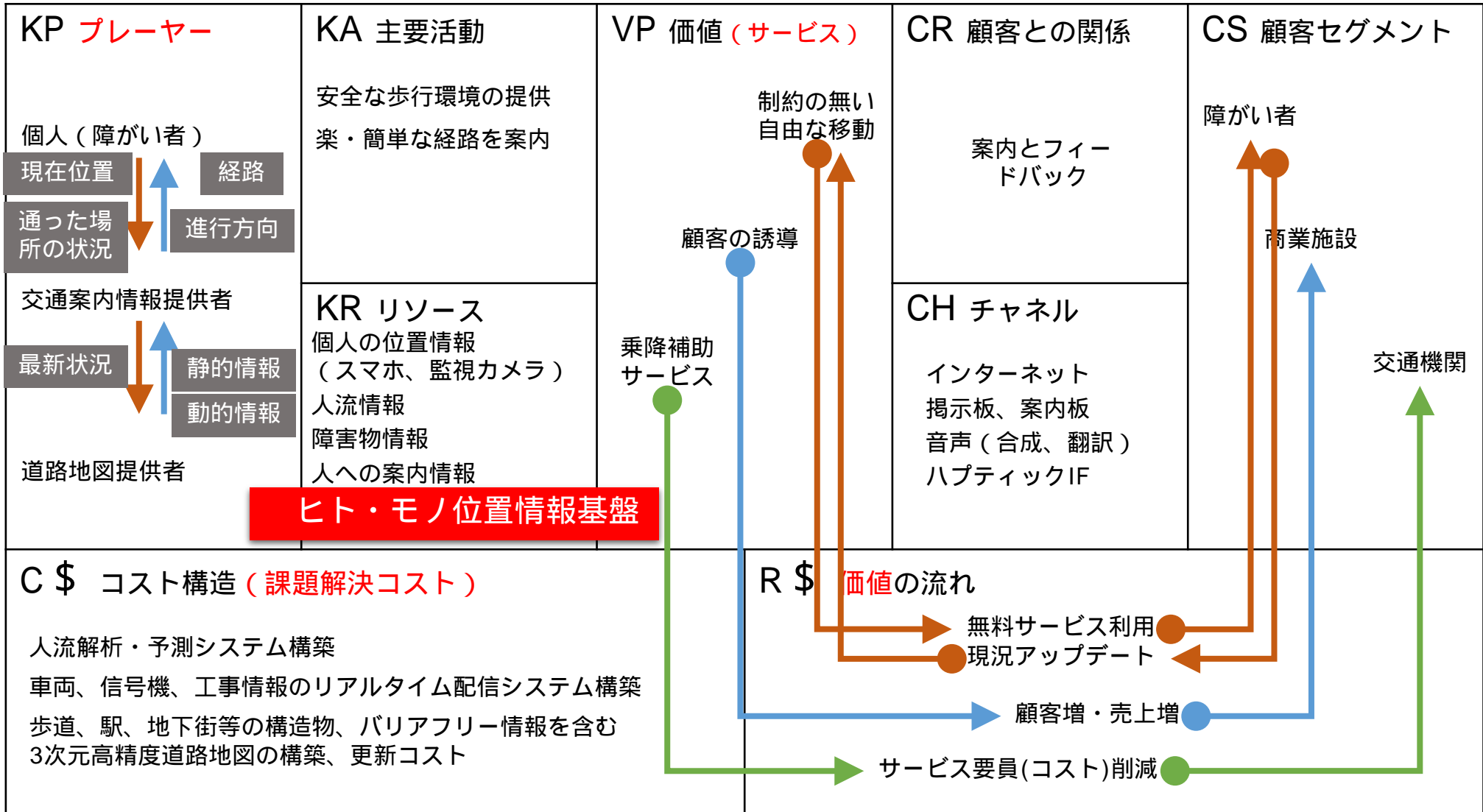
・スマート生産システム × スマート・フードチェーン
による農業の付加価値生産性向上

・ものづくりシステム × 高度道路交通システム
によるものづくり効率化

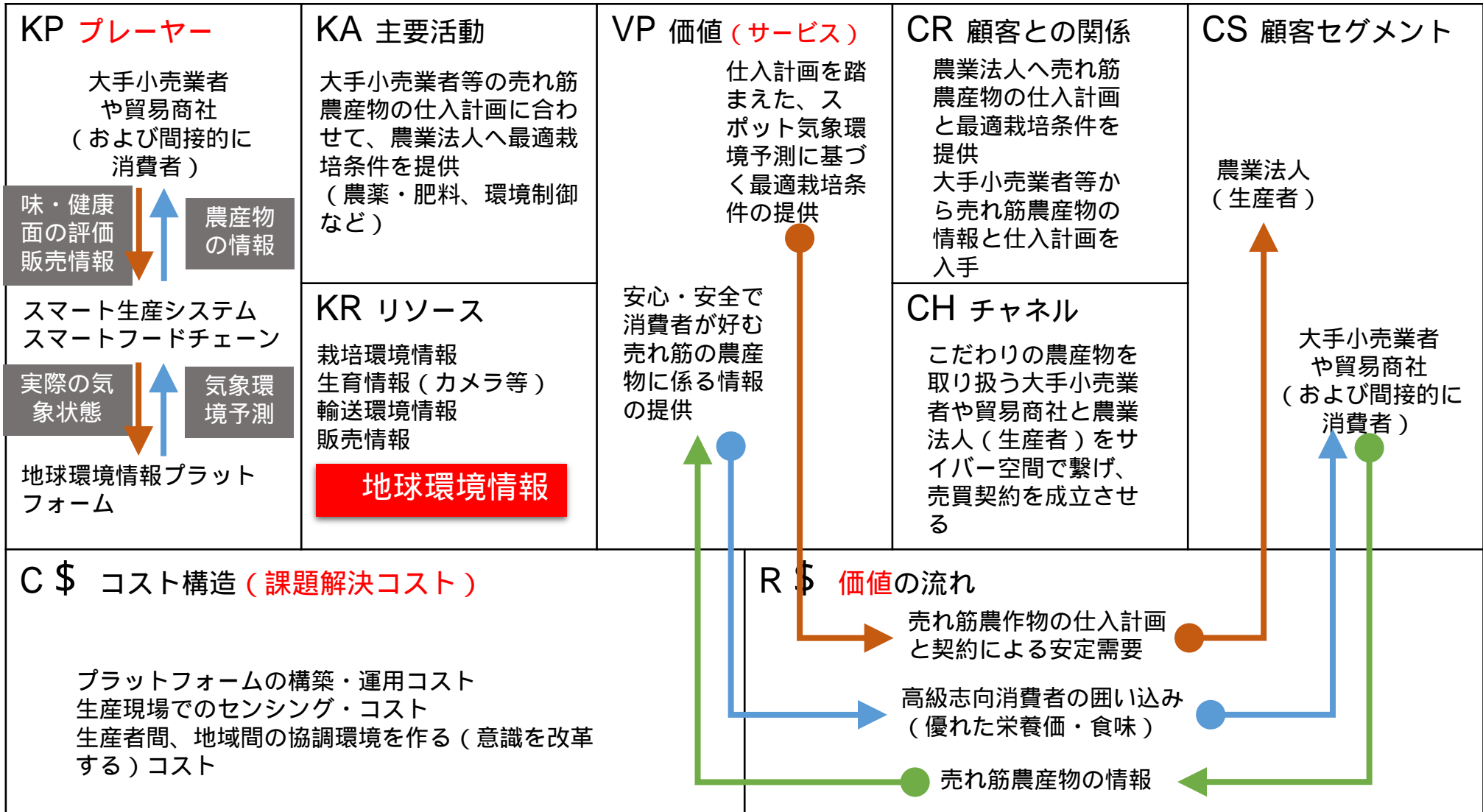
・おもてなしシステム × インフラ維持管理システム
× 高度道路交通システム
による新たなサービス創出

・おもてなしシステム × 高度道路交通システム
による新たなサービス創出

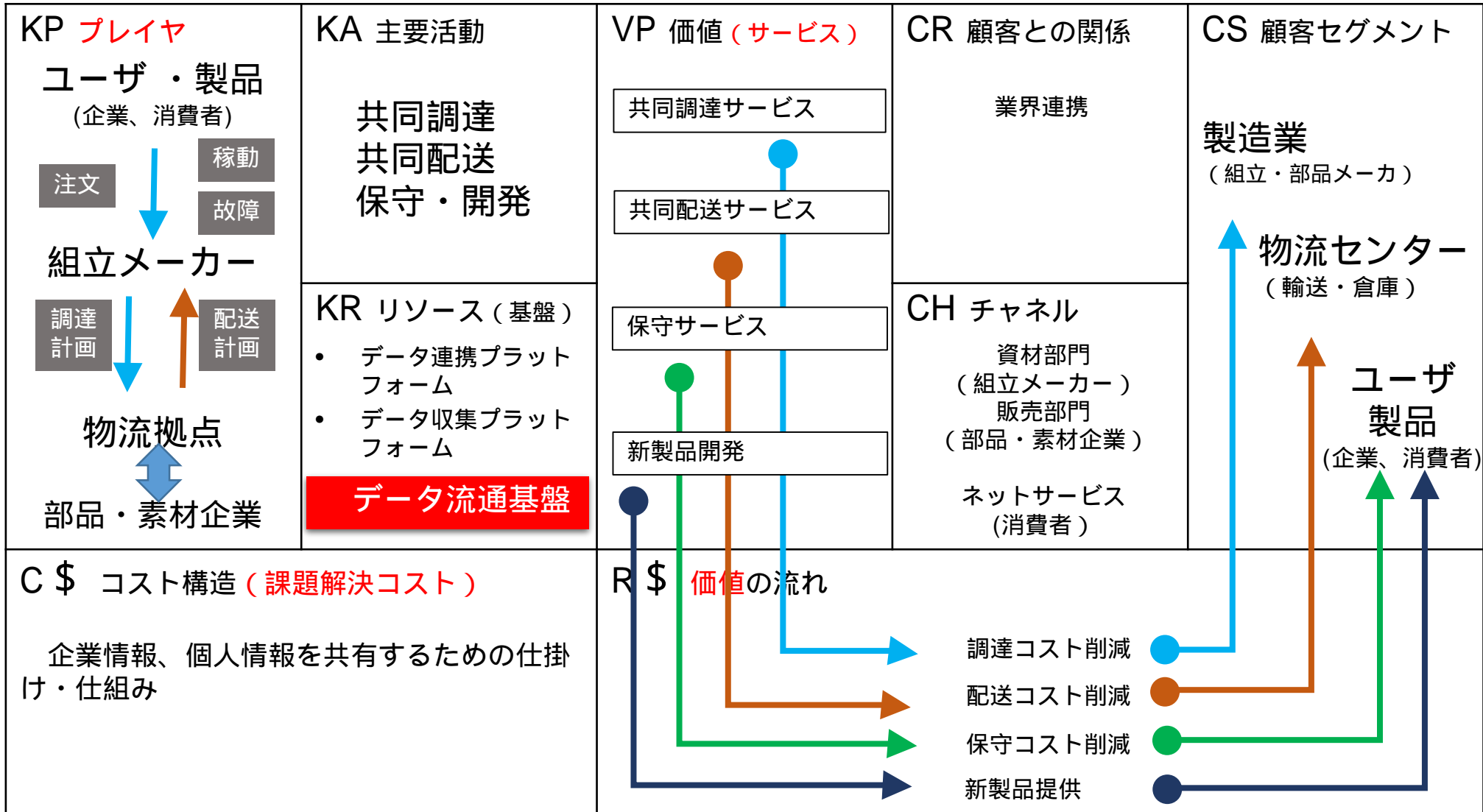
新No.	旧No.	価値カテゴリー	実現可能性	実現時期
12,13	40,41	利用者の安全・安心	低 中 高	短期 ~2020 中期 ~2030 長期 2030~



新No.	旧No.	価値カテゴリー	実現可能性	実現時期
47	3	農業の付加価値生産性	低 中 高	短期 中期 長期 ~2020 ~2030 2030~



新No.	旧No.	価値カテゴリー	実現可能性	実現時期
70,71	68,69	ものづくり効率化	低 中 高	短期 ~2020 中期 ~2030 長期 2030~



新No.	旧No.	価値カテゴリー	実現可能性	実現時期
3,9,13,98	12,31,41,17	サービス創出（地図基盤とIoT情報）	低 中 高	短期 中期 長期 ~2020 ~2030 2030~

